

研究タイトル: **日本漢文学研究**



氏名:	河野 友哉 / Tomoya Kawano	E-mail:	tomoya@tomakomai-ct.ac.jp
職名:	講師	学位:	修士(文学)
所属学会・協会:	北海道大学国語国文学会、中古文学会、和漢比較文学会、 全国大学国語国文学会		
キーワード:	漢文伝 日本漢文学 日本文学史 日本古典文学 和漢比較文学 日本思想史		
技術相談 提供可能技術:	古典文学講読 漢文学講読 日本文学史解説 古典教育 漢文教育		

研究内容: **平安時代を中心とする日本漢文学研究**

1. 【研究対象と目標】

★日本の漢文学（古典）：古代漢文伝の代表作である『**藤原保則伝**』および『**恒貞親王伝**』（平安時代前期成立）  
⇒その特質を解明し、多角的評価を行うことが目標

2. 【研究史と問題意識】

- ・今日までの平安文学研究史：仮名文学偏重の傾向、漢文学研究にはなお多くの問題点が残存
- ・さらに、漢文学研究の中でも、**〈韻文〉＝漢詩の研究史に比べて〈散文〉の研究史は手薄**  
→**〈散文〉の文献として、漢文伝の特質を解明することが急務**  
⇒**漢文伝の特質を言語表現・内容・文体・文学史といった様々な点から解明し、仮名文学や他の漢文学との関係の中に位置づける（相対化する）ことの必要性**

3. 【研究手法】

◎作品本文の徹底的分析

※漢文伝のように研究史の厚くない作品は、本文校訂・注釈等の「作品を論ずる土台」となる基礎的部分にも留意する必要がある（実際にその必要性から、**平成 30 年 7 月に尊経閣文庫にて原本調査を実施した**）

4. 【主要業績】

《学術論文》

- ・『藤原保則伝』試論——〈批判精神〉の獲得とその文学史的意義——  
（「國學院雑誌」121 の 3、令和 2 年 3 月）
- ・“歴史叙述、として読む漢文伝——〈敗者〉を語る言説に注目して——  
（『古代中世文学論考』第 41 集、令和 2 年 10 月）

《講演・口頭発表等》

- ・「藤原保則伝」試論——出羽における治績の再検討——  
（東アジア古典学の方法 第 58 回 次世代ロンド (25)、令和元年 11 月 8 日、東大駒場キャンパス）

⇒『藤原保則伝』及び『恒貞親王伝』について、**文学史上の意義を大いに認めるべきことや同時代の仮名文学と密接な関わりがあること**等、これまでの研究の中で明らかならしめてきた。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	